

第217回 津久井の歴史こぼれ話を語る会

# 襖の中から現れた江戸庶民の暮らし

語り手 しろうず さとし 白水 智 さん(中央学院大学、教授)

日時：令和2年2月16日(日) 午前9:30 ~ 11:45 (開場9:10)

会場：もみじホール城山(相模原市立城山文化ホール) 定員80名(先着順)予約は不要です。

今回は開始時間が午前9時30分となっておりますのでご注意ください。(相模原市緑区久保沢

2-26-2 JR橋本駅北口より神奈中バス「三ヶ木」行きで「城山総合事務所入り口」下車徒歩10分)

費用：500円(資料代) \*ご夫婦参加はペアで500円。中高生、大学生は無料です。

古い襖の中には、不要になった古文書が下張り(下地)として大量に貼られている。多くは切り刻まれた断片になっているが、それらを丹念に整理していくと、他の資料からは知ることのできない昔の生活が見えてくる。甲州街道小原宿から見つかった襖の下張り古文書をもとに、下張文書とは何か、また江戸時代の街道をどのような旅人やモノが往き来していたのかを探る。



主催：城山地域史研究会 会長 山口 清 協力：城山公民館

問い合わせ先：事務局 三宅 (090-3219-2805)